図書紹介（128）

島田勝巳著

『宗教から見た世界』（天理教道友社、2021年）

おやさと研究所主任
堀内　みどり　*Midori Horiuchi*

本書は、平成20年（2008）から令和3年（2021）にかけて『天理時報』に連載されたコラム「宗教から見た世界」から、島田さんが担当した95篇から61篇を選び、それに加筆修正したものが纏（まと）められている。

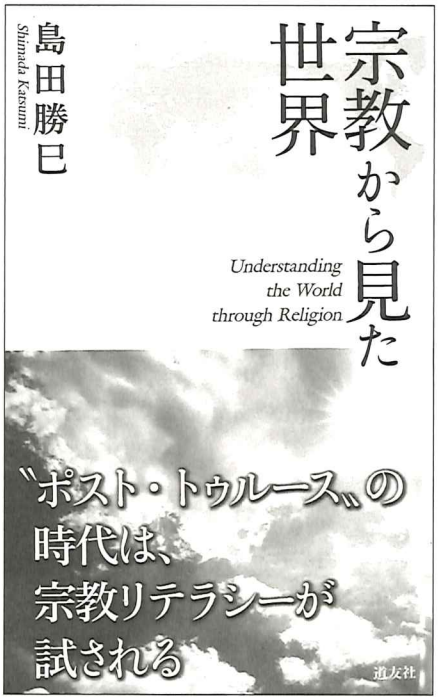
島田さんは、「『あとがき』に代えて　グローバル化の先を見据え」で、本書の元になっているコラムについて次のように述べる。

> 天理教の機関紙である『天理時報』に、天理教についてはほとんど言及しない「宗教から見た世界」というコラムが長らく掲載されていたことを、訝（いぶか）しく思われていた読者も少なくなかっただろう。私としては、必ずしもそれは執筆当初から意図していたことではなかった。世界で生じているさまざまな出来事を、「宗教」という窓を通して見ることで、この道の信仰を共にする読者に、普段聞き慣れている、あるいは使い慣れているものとは幾分違った言葉を届けることができれば、というささやかな願いがあった。（中略）
> 今を生きる私たちにとって、「人をたすける」とは具体的にはどのような課題が山積しているのか……。そうした大きく、かつ漠然とした問いを念頭に置きながら、グローバル化する現代世界において、宗教が、あるいはその教説、慣習、組織、伝統といった要因が、陰に陽に作用している多様で複雑なそのありようについて、コラムというかたちで綴（つづ）って見ることになった。

そして、「『宗教から見た世界』と名乗っていても、実のところは米国の動向に左右されていたことを、あらためて実感する。それにしても、この間の“揺り戻し”は、単に米国に留まる問題ではないだろう。むしろ、それによって浮き彫りになったのが『（宗教）リテラシーの危機』という事態であったと言えるかもしれない。」と続ける。

2001年の同時多発テロによって惹起した「なぜ、あのようなことが宗教的に正当化されるのか」という疑問は、イスラームへの恐怖・嫌悪などを急速に醸成していった。そうした中、宗教について与えられた情報を批判的に読み解く力を提示する試みも相次いだという。著者はこの「宗教リテラシー」という手法によって、今日の国際情勢における宗教の役割について読み解いていく。本書第1章にあたる「Ⅰ 宗教リテラシー」では、そもそもリテラシーとは何か、リテラシーの持つ意味と役割、そしてその意義が述べられる。「『宗教リテラシー』の意義」を以下に引用する。本書の目的を端的に説明していると思うからである。

> 「宗教リテラシー」という言葉が最近、米国で用いられるようになったのは、実は、単にイスラームをはじめとする世界の諸宗教についての知識教育の必要性を、米国の出版界やアカデミズムが痛感し始めたからという理由だけに留まらない。



近著『レリジャス・リテラシー』（Harper SanFrancisco, 2007）でこの言葉を広めたS.プロセロ教授（ボストン大学）によれば、米国民の多くはキリスト教以外の世界の宗教に関する知識に乏しいだけでなく、今やキリスト教についての知識さえもおぼつかない。キリスト教伝統についての知識が、米国民の良き「教養」と考えられていた時代は、遠い昔の話だという。

プロセロ教授は、国内外で進展する宗教の多元化状況を含め、人工妊娠中絶、同性婚、幹細胞研究など、宗教的価値観が国民生活のうえで、ますます重要な意味を持つようになった今日の米国社会の変化に鑑み、良き市民にとっての教養としての「宗教リテラシー」の意義を強調する。

一方、少子化による産業人口の漸次的減少という現実のなか、今後、多くの労働力を外国人に頼らざるを得なくなる日本でも、「宗教リテラシー」の必要性が高まっていくと考えられる。

宗教的価値観をめぐる市民的な議論に参加していくうえでも、世界の諸宗教に関する基礎的な知識が不可欠なのである。

こうして、「Ⅰ」では、チベット問題、イスラエル建国60周年、「絶望」と「テロ」、トルコの「政教分離」、インドの宗教間対立等々の宗教的背景を読み解き、また、「サリン事件」以後の宗教知識教育、「パワースポット」としての伊勢神宮など合計17事例について考察されている。宗教とその背景を理解するというのは、その人の、その国の、その文化を理解しようとする営みであることが了解されてくる。「Ⅱ イスラム教と欧米」は、イスラム教に関わる話題が提供されるだけでなく、同性婚についてのキリスト教の態度・対応が読み解かれるなど、23の話題が提供される。「Ⅲ『悲嘆』から『希望』」では、移民問題と人々の「分断」、「コロナ禍の世界」から見る宗教、隠喩としてのマスクなど21の事柄の宗教的意味合いが読み解かれていく。

本書は新書版で、ほぼ見開きで読み切ることができ、どこの話題からでも読み始められる。是非、お読みください。